11 月 25 日(火)10:00～11:30、泉佐野市立社会福祉センター2 階大会議室にて、第 5 回泉佐野市立児童発達支援センター主催研修会を開催しました。研修会には、市内の小中学校、こども園、通所支援事業所、相談支援事業所、府立支援学校、その他市内関係機関等から、38 名の支援者の参加がありました。
講師には、同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授で、『「家族の流儀」を大切にする支援』(金子書房)の著者でもいらっしゃる、勝浦眞仁氏にお越しいただきました。

講演は『発達障碍のある子どもの親を支える』をテーマに、著書の内容にも触れていただきながら、「家族の流儀とは、子育ての真っただ中にある親子が意識的・無意識的にかかわらず持っている物であり、また、障害の有無にかかわらず、親である誰もが当たり前に我が子の育ちに一喜一憂し、様々な悩みを抱えている。」「そのうえで、発達障害のある子の親は“障害特性”と“我が子らしさ”の間で、常に揺れ動き葛藤している。」とのお話がありました。また、親として当たり前に持っている様々な悩みに対して、「自閉症、発達障害、障害特性、といった特定の枠組みではなく、その子自身の良いところや強みを“その子らしさ”としてともに見ていく支援が大切である。」「親を“共同療育者”として見るのではなく、また、“〇〇さんのお父さん・お母さん”としてでもなく、“その人個人”として関係づくりをしていくことが、家族支援の中でとても大切なこと。」といった講演の内容は、多くの支援者がこれまでの支援の在り方や保護者とのかかわりを振り返り、明日からの支援を大きく前進させるものだったのではないかと思います。

寄せられた感想では、「日々の子育ての中から家族が紡いできた流儀を見つけ、そのあり方を尊重する家族支援とはとても温かいものだと感じました。」「確実なものに、答えを見つけにいこうとすることで、家庭をこちらの渦に引き込んでしまい、子どもらしさを見えづらくしてしまうことを念頭に置き、不確実に耐えうる力を持ちながら、支援をしていきたいと思いました。」など、具体的で前向きな感想が多くありました。